



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT 2008年度

IIR

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2008年度

ANNUAL REPORT 2008年度

INDEX

目次

はじめに	
イノベーション研究センターについて	i

I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) 産学官連携プログラム	04
3) 共同研究プロジェクト	06
4) 国際シンポジウム等	09

II. 研究員	13
1) 専任研究員	14
2) 兼任研究員	30
3) 外国人研究員（客員）	30

III. 教育活動	31
1) 講義	32
2) 資料室	36

IV. 研究成果および刊行物	39
1) 一橋ビジネスレビュー	40
2) ワーキングペーパー	45
3) ケーススタディ	46

イノベーション研究センターは、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、イノベーションの生成プロセスに関するわれわれの理解は不十分な状況にあり、技術開発の領域でイノベーションが扱われることはあっても、技術的発明が産業発展へと実を結ぶまでの長い社会的プロセスには、十分な注意が払われてこなかったといえます。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。イノベーション研究センターが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

主たる研究領域として、技術や組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明しようとする「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者の個人的特徴を解明しようとする「革新者研究」、また、企業や大学、個人などの主体間のつながり方によってイノベーションが受ける影響を解明しようとする「ネットワーク研究」、こうした実証的研究を大きな視野で位置づけ、背後にある歴史的コンテクストを理解し、イノベーションの発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などのイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、そしてさらに、これらの実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる領域として「知識経営研究」、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」が設けられています。

イノベーション研究センターでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11 月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として 発足した
1945年	5 月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5 月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6 月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4 月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4 月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育 研究施設に改組されて発足した
2000年	9 月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊

I. 研究活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. イノベーション研究フォーラム——2008年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回のペースで行っている (<http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/event/event.html>)。

9月1日	Kirankumar Momaya "Cooperative Strategies for Innovation: Exploring Contexts and Concepts" Associate Professor, Indian Institute of Technology, Delhi / Visiting Associate Professor, IIR
9月17日	Jed De Varo "Internal Promotion and External Recruitment: A Theoretical and Empirical Analysis" (This paper is coauthored with Hodaka Morita) The Wang Family Professor, College of Business and Economics, California State University, East Bay
10月7日	Ishtiaq Pasha Mahmood "Hub or Federation? Network Centralization and Business Group Performance" Professor, National University of Singapore
10月24日	Wim Vanhaverbeke "Future Research in Open Innovation" Professor, Strategy & Organisation in the Department of Business Studies, Hasselt University (Belgium)
10月29日	Clair Brown "Semiconductor Industry from Global Perspective" Professor of Economics and Director, Center for Work, Technology, and Society, University of California, Berkeley
11月7日	大下孝裕「内部循環型流動層技術の開発」 (株) 荏原総合研究所 代表取締役社長 (GCOE 大河内賞ケース研究プロジェクト第1回講演会)
12月5日	Esther van Zimmeren "Open Innovation in Medical Biotechnology in Europe" Invited Researcher, Institute of Intellectual Property, Tokyo / Research Fellow, Center for Intellectual Property Rights, University of Leuven
12月5日	Guido Cozzi Privatization of Knowledge: Did the U.S. Get It Right? Professor, Bonar-MacFie Chair of Political Economy, University of Glasgow
12月18日	波多腰玄一「0.6 μ m 帯可視光半導体レーザの開発」 東芝リサーチ・コンサルティング(株) フェロー / (独) 科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー (GCOE 大河内賞ケース研究プロジェクト第2回講演会)
1月13日	Matthias Kipping "Management Consultants as a Systemic Risk: McKinsey @ Enron" Professor, Schulich School of Business, York University (Canada)
2月4日	木村博彦・菅野利猛「ITを基軸とした革新的フルモールド鋳造システムの開発」 (株) 木村鋳造所代表取締役; (株) 木村鋳造所取締役開発部長 (GCOE 大河内賞ケース研究プロジェクト第3回講演会)

- 2月23日 Ulrike Schaede "The Demise of the Main Bank as a Last Resort: Changes in Corporate Restructuring in Japan, 1981-2007"
(This paper is coauthored with Takeo Hoshi and Satoshi Kobuchi)
Professor, University of California, San Diego
-
- 3月5日 眞峯隆義「MOCVD 法による化合物半導体デバイスの開発と量産化」
東京大学産学連携本部産学連携研究推進部 特任教授
(GCOE 大河内賞ケース研究プロジェクト第4回講演会)
-
- 3月18日 花本伸行 "Complexity, Uncertainty, and Organizational Congruency" (joint with Hideo Owan)
筑波大学人文社会科学研究科経済学専攻
-
- 3月18日 Cornelia Storz "How Do New Industries Emerge? The Case of Japan's Game Software and Biotech Industry"
Professor, Faculty of Economics and Business Administration, Goethe University
-
- 3月26日 Jinyoung Kim "International Knowledge Flows: Evidence from an Inventor-firm Matched Data Set "
Professor, Department of Economics, Korea University / Research Associate,
Center of Excellence on Human Capital, Technology Transfer, and Economic Growth
and Development, State University of New York, Buffalo

2. 産学官連携プログラム「イノベーション過程の研究」

イノベーション研究センターは、政府からの特別交付金による支援を受けて、2008度より産学官連携によるイノベーション過程の研究プログラムを開始した。本プログラム推進のために産学官界から特任教員、研究員を招聘し、さらに連携機関を選定して実質的に共同研究する体制を整え、各プロジェクトに取り組んでいる。プログラムの概要は以下の通り、より詳しい内容は、http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/research/sgk_index.html。

■ 目的

イノベーションが日本経済の今後の成長の鍵となっている。イノベーションは知識の創造においてもその活用においても、高度に複雑でかつ社会的分業を伴う過程であり、その効果的推進の在り方を明らかにするには、体系的で客観性のあるデータの蓄積とそれによる創造から利用までのプロセス全体の研究が必要となる。本研究プログラムは、イノベーション・プロセス（知識生産のメカニズム、研究開発における競争と協調の在り方など）に関する研究を産学官連携によって推進し、国際的な水準の研究成果を得ると共に、その成果を政府機関・産業界の技術経営能力の向上、及びイノベーション推進のための斬新な政策・制度改革の提言に具体化することを目指す。

■ 研究分野

〔1〕 イノベーション過程の測定

政府が支援した研究プロジェクトの体系的なケーススタディ、そのアンケート調査、及び特許などの統計データをも利用した実証分析等を通して、知識融合など知識生産のメカニズムの実態を把握する。

具体的には、文部科学省科学技術政策研究所（NISTEP）と連携して、これまで大学が蓄積したサーベイ調査のノウハウ、及び NISTEP のデータベース情報を活用して科学者への大規模な質問票調査を実施、知識生産プロセス、研究のアウトプット、研究環境やインプットなどを把握して、科学における知識創造過程や科学知識からイノベーションが創出される過程について実証研究を行う。

また、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との連携で、これまでのイノベーション研究の成果を活用しつつ、イノベーション過程の測定方法に関する理論的研究や手法の開発を進める。並行して NEDO が支援した研究プロジェクト及び研究者のデータベース化を行い、このデータを対象として理論や研究手法の実践的検証を行うことで、知識融合、知識生産のメカニズム、知識の商業化過程などの実態を把握、分析する。

〔2〕 技術経営

研究開発の成果を国あるいは産業界全体として効率的にイノベーションに結びつけていく技術経営の在り方を研究。社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）半導体ロードマップ委員会、経済産業省、また半導体製造装置、半導体デバイスメーカーなど産業界の協力を得た研究体制を構築し、世界半導体ロードマップ（ITRS）が生み出されるメカニズム、ITRS が果たしてきた歴史的な意義・意味（含む限界）、将来における ITRS の発展可能性等々に関した研究を進める。また、財団法人バイオインダストリー協会、及び日本製薬工業協会医薬産業政策研究所と連携して、バイオ分野におけるハイテク・スタートアップ企業の参入・成長メカニズム、及び医薬品産業との連携のあり方の研究を進める。

[3] 政策・制度

上記の事例研究、統計的なデータベース、国際比較研究をベースに、日本における新産業の創出、既存産業の持続的な革新に障壁となっている問題点を分析し、斬新な提言につながる研究を行う。

■ 研究担当

イノベーション研究センター各専任教員

伊神正貫 特任准教授／文部科学省科学技術政策研究所 主任研究官

長田俊彦 特任教授／富士通マイクロエレクトロニクス株式会社デバイス開発統括部
専任部長

龜山雅臣 特任教授／株式会社ニコン精機事業部開発本部 主幹技師

所 源亮 特任教授／アリジェン製薬株式会社代表取締役社長

内藤祐介 産学官連携研究員／株式会社人工生命研究所代表取締役

伊地知寛博 非常勤共同研究員／成城大学社会イノベーション学部教授

大湾秀雄 非常勤共同研究員／青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授

津野勝重 非常勤共同研究員／Electron Optics Solutions

中村健太 非常勤共同研究員／神戸大学大学院経済学研究科講師

本庄裕司 非常勤共同研究員／中央大学商学部教授

森下節夫 非常勤共同研究員／財団法人バイオインダストリー協会 企画部次長

塚田尚稔 研究助手

■ 2008年度（初年度）の活動

(1) 共同研究のための覚書、協定の締結

連携機関との共同研究を効果的に推進するため、これまでに、以下の三つ協定、覚書を締結して、各分野の研究に取り組んできた。協定、覚書は、共同研究の推進、シンポジウムなど研究成果の普及等への協力、秘密保持、学会等での公表等について規定をしている。

- ・ バイオインダストリー協会及び日本製薬工業協会医薬産業政策研究所との三機関の間で、「バイオ・ライフサイエンス分野のイノベーション過程に関する産学官連携研究への協力協定」（2008年11月）
- ・ 文部科学省科学技術政策研究所と、「共同研究（サイエンスにおける知識生産プロセスに関する共同研究）に関する覚書」（2009年2月）
- ・ 新エネルギー・産業技術総合開発機構と、「イノベーション過程と研究開発プロジェクトのマネジメント手法等に関する研究の協力協定」（2009年4月）

(2) 研究会、ワークショップ

研究分野ごとに研究会や、定期的に報告会を行ってきた。2009年3月には、産学官連携ワークショップ「バイオ・イノベーションの過程と今後の戦略」と題して、バイオ関連のこれまでの実証分析の結果など中間報告を行った（ワークショップの内容については10頁参照）。

3. 共同研究プロジェクト——2008年度

イノベーション研究センターでは、様々な学問領域の研究者が集まるグローバルハブとしての利点を生かし、既存のディシプリンにとらわれることなく、領域横断的に日本の産業が直面している問題や課題の解決に貢献することを目指した共同研究を進めている。

(開始年度順、*はプロジェクトの代表、又はコーディネーター)

■「ネットワークとイノベーション」

概要

フィールド調査に基づく実証比較研究によって、地域経済ネットワークや企業ネットワークにおける最新の動向を忠実に追うとともに、理論的な貢献をも念頭に置きながら、新発見を体系化していく。実証的証拠を積み重ねて、最新のスモールワールド・ネットワーク理論の妥当性やその応用も企図する。新進気鋭の若手学者らとの緊密なコラボレーションを通して、実証研究を着実に進め、多くの新発見を伴う、実り多い共同研究を目指す。

期間

2004年度～

研究メンバー

西口敏宏*、延岡健太郎（2008年度～）、許 丹（中国・同済大学）、辻田素子（龍谷大学）、天野倫文（東京大学）

2008年度の活動

本プロジェクト開始5年目にあたる本年度も引き続き、ウクライナなど、フィールド調査を続行、世界各地で繁栄する、中国・温州人の経済ネットワーク（スモールワールド・ネットワーク理論の枠組みを用いて分析）の実証研究をさらに深化させた。その成果の一部を含めた本の出版を予定している。

■「GCOE 大河内賞ケース研究」

概要

本プロジェクトは、日本の優れた技術革新を長年にわたって表彰してきた伝統と権威ある賞である「大河内賞」を受賞した業績を事例としてとりあげ、日本のイノベーションのケース・データを蓄積し、ケース横断的な比較分析を行って、日本企業のイノベーション活動の特徴や課題を探り出すことを活動の主な目的としている。また、ケースの分析を深めつつ、技術の世界と社会科学の世界の知見を結ぶための貴重な場を構築し、日本社会が今後イノベーションを創出していく上で有益な知見を導き出していくことを目指している。

本プロジェクトは、すでに文部科学省21世紀 COE プログラム「知識・企業・イノベーションのダイナミクス」（2003-2007年度実施）の一環としての活動実績があり、過去5年間にわたって大河内賞を受賞された25社の方々のご協力を得て、22事例がケーススタディとして公開されているほか、国際シンポジウム、ワークショップなどを通じて、その成果を様々な形で世の中に発信してきている。今後も引き続き、グローバル COE プログラム「日本企業のイノベーション—実証経営学の教育研究拠点」の一環として活動を継続し、研究成果をケーススタディとしてまとめて広く公開していくほか、過去の研究成果とあわせて、さまざまなケースを俯瞰し、横断的な分析を加えながら、研究論文、著作物などにまとめていく計画である。より詳しい内容は、

[http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/reserch/GCOEokochiprize\(A\).html](http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/reserch/GCOEokochiprize(A).html)。

期間

2008年度より5年間

研究メンバー

青島矢一*、中馬宏之、延岡健太郎、軽部 大、清水 洋、加藤俊彦（商学研究科）、松井 剛（同）、武石 彰（京都大学、前 IIR 教授）、宮原諄二（東京理科大学、前 IIR 教授）

2008年度の活動と成果

受賞者による講演会を4回実施、新たな事例研究に取り組むとともに、昨年度までの活動を継続して以下を公表した。

論文

- (1) 武石 彰・青島矢一・軽部 大「イノベーションの理由：大河内賞受賞事例にみる革新への資源動員の正当化」『組織科学』42巻1号，2008年9月，4-14頁

IIR ケーススタディ・シリーズ

- (1) 青島矢一・北村真琴「セイコーエプソン株式会社：高精細インクジェット・プリンタの開発」IIR ケーススタディ CASE#08-03，2008年5月
- (2) 高梨千賀子・武石 彰・神津英明「NEC：砒化ガリウム電界効果トランジスタの開発」IIR ケーススタディ CASE#08-04，2008年9月
- (3) 小阪玄次郎・武石 彰「伊勢電子工業：蛍光表示管の開発・事業化」IIR ケーススタディ CASE#08-05，2008年9月

- 『一橋ビジネスレビュー』 ビジネス・ケース・シリーズ
- (1) 武石 彰・宮原諄二・三木朋乃「富士写真フイルム デジタル X 線画像診断システムの開発」『一橋ビジネスレビュー』 56巻2号, 2008年9月, 126-147頁

4. 国際シンポジウム等

■ 国際応用計量経済学会・イノベーション研究センター共催 コンファレンス「特許とイノベーション」

国内外から約70名が参加して、5つの基調講演、9つのセッション、及びポスターセッションを行い、約50本の研究論文が発表された。イノベーション研究センターは、開催校としてコンファレンス運営に協力した。コンファレンスの概要は以下の通り、詳しくは、http://www.aea-eu.com/2008Tokyo/UK/index.asp?id_colloque=61&lang=UK&link=programme。

97th Applied Econometrics Association (AEA) Conference on Patents and Innovations

Organized by AEA and IIR

Supported by Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI), European Patent Office (EPO), Intellectual Property Association of Japan (IPAJ), Law and Economics Group of Hitotsubashi University

Date: December 19-20, 2008

Place: Sano shoin Hall and Mercury Tower at Hitotsubashi University

December 19

Welcome: Takehiko Sugiyama (President of Hitotsubashi University), and Seiichiro Yonekura (Director of IIR)

Keynote Speeches: Hiroyuki Odagiri (Hitotsubashi University), and Dietmar Harhoff (Ludwig-Maximilians-Universität München)

Session 1 Mergers and Market for Technology

Session 2 Inventors

Session 3 Knowledge Spillover

December 20

Keynote Speech: Beth Webster (University of Melbourne)

Session 4-1 IPR and Innovation Policy

Session 4-2 Firm Strategies and Performances

Session 5-1 National Innovative Performance

Session 5-2 R&D Productivity

Session 6-1 Theoretical Search for the Efficient IPR System

Session 6-2 Portfolio and Value

Keynote Speeches: Bronwyn Hall (University of California), and Robert Hunt (Federal Reserve Bank of Philadelphia)

■産学官連携ワークショップ「バイオ・イノベーションの過程と今後の戦略」

本ワークショップは産学官連携プログラムの一環として行われた。150名の方々のご参加をえて、イノベーション過程において重要な三つの課題、バイオスタートアップの成長過程、基礎研究の商業化への政府支援、及び医薬産業とバイオスタートアップのアライアンスのあり方について、内外の専門家の見方、及び産学連携による実証分析の結果を報告し、今後のバイオ・イノベーションのあり方をグローバルな観点から議論した。

産学官連携ワークショップ「バイオ・イノベーションの過程と今後の戦略」

日時：2009年3月10日

場所：六本木アカデミーヒルズ49階オーデトリウム

主催：一橋大学イノベーション研究センター

共催：財団法人バイオインダストリー協会、日本製薬工業協会医薬産業政策研究所、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）

プログラム

開会挨拶 一橋大学イノベーション研究センター 米倉誠一郎センター長

セッション1 サイエンスの成果の商業化への政府支援

司会 長岡貞男（IIR 教授）

基調講演1 「NIH のSBIR プログラムからの教訓」 Charles W. Wessner 博士（全米科学アカデミー 技術・イノベーション・アントレプレナーシップ部長）

コメント：竹廣 克（経済産業省製造産業局生物化学産業課 課長補佐）

セッション2 バイオ技術ベースのイノベーション：産業界から見た現状と課題

司会 延岡健太郎（IIR 教授）

基調講演2 「日本の製薬企業の研究開発戦略とバイオ技術」 秋元 浩（東京大学大学院工学系研究科客員教授 / 九州大学特任教授 / 日本製薬工業協会知的財産顧問）

基調講演3 「日本のバイオベンチャーの課題」 中富一郎（ナノキャリア（株）代表取締役社長）

コメント：所 源亮（アリジェン製薬（株）代表取締役社長 / IIR 特任教授）

コメント：青島矢一（IIR 准教授）

セッション3 バイオ技術の産業化のメカニズム：バイオスタートアップとアライアンス（産学連携研究の報告）

司会 中馬宏之（IIR 教授）

報告 (1) 「日本のバイオ企業の上場戦略と上場後のパフォーマンス」 IIR（米倉誠一郎教授、Eyo Shiao Jia（博士課程））

コメント：山崎清一（（株）いちよし経済研究所 首席研究員）

報告 (2) 「日本のバイオ企業の参入と成長のメカニズム：コア技術の獲得と成長」 IIR（長岡貞男教授、本庄裕司共同研究員 / 中央大学教授、中村健太共同研究員 / 神戸大学講師）
及びバイオインダストリー協会（森下節夫次長、清水由美主任）

コメント：嶋内明彦（(株) エムズサイエンス 代表取締役社長）

報告 (3) 「アライアンスと製薬企業のパフォーマンス：日米欧主要製薬企業の比較分析」 IIR
（長岡貞男、中村健太、本庄裕司）、及び日本製薬工業協会医薬産業政策研究所
（高鳥登志郎主任研究員）

コメント：土屋政幸（中外製薬（株）ライフサイクルマネジメント第3部長）

閉会挨拶 バイオインダストリー協会 森下節夫次長

II. 研究員

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 専任研究員——2008年度



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D. (経営学) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 編著書

青島矢一（編）『企業の錯誤 教育の迷走—人材育成の「失われた10年」』東信堂，2008年8月，196頁

1.2. 論文，本の1章

青島矢一・朱 普偉・呉 淑儀「無錫小天鵝：中国家電企業の成長と落とし穴」『一橋ビジネスレビュー』56巻1号，2008年6月，128-145頁

Aoshima, Yaichi, "Mobility of R&D Workers and Technological Performance," Japan Labor Review, Vol. 5, No. 3, July 2008, pp. 33-60

青島矢一「失われた10年と人材育成・教育システムの改革」青島矢一（編）『企業の錯誤 教育の迷走—人材育成の「失われた10年」』東信社，2008年8月，所収，序章，3-26頁

青島矢一「全体観の欠如と個性の罣」同書所収，終章，183-195頁

武石 彰・青島矢一・軽部 大「イノベーションの理由：大河内賞受賞事例にみる革新への資源動員の正当化」『組織科学』42巻1号，2008年9月，4-14頁

竹田陽子・青島矢一・延岡健太郎・林 采成・元 時太「設計3次元化が製品開発プロセスと成果に及ぼす影響に関する日本・中国・韓国の比較調査」『技術マネジメント研究』8号，2009年3月，53-61頁

青島矢一・鈴木 修・長内 厚「ビジネスケース：ビットワレット株式会社 電子マネー市場の創造と事業戦略の構築」『一橋ビジネスレビュー』57巻1号，2009年6月，82-102 頁，近刊

青島矢一「戦略転換の遅延：デジタルカメラ産業における「性能幻想」の役割」『研究技術計画』2009年，近刊

1.3. その他

Aoshima, Yaichi, "Distress & Prospects for Japan's Electronics Industry," Japan Spotlight, Vol. 27, No. 5, Sep-Oct, 2008, pp. 13-15

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

青島矢一・北村真琴「セイコーエプソン株式会社：高精細インクジェット・プリンタの開発」IIR ケーススタディ CASE#08-03, 2008年5月

3. コンファレンス, 学会発表

楠木 建・青島矢一「システム再定義としてのイノベーション」2008年度組織学会研究発表大会, 2008年6月7-8日, 神戸

Aoshima, Yaichi, "The 'Performance Illusion' that Deters Commoditization: The Case of the Digital Still Camera Industry," presented at the Mitsubishi Bank Foundation International Conference, August 26-28, 2008, Mishima

Aoshima, Yaichi, "The 'Performance Illusion' that Deters Commoditization: The Case of the Digital Still Camera Industry," presented at the 2008 Annual Conference of the Chinese Society for Management of Technology, December 12-13, 2008, Taipei



江藤 学

■ 履 歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在バリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士（工学）東北大学
- 2008年8月～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 編著書

新宅純二郎・江藤 学（編）『コンセンサス標準戦略：事業活用のすべて』日本経済新聞出版社，2008年7月，281頁

1.2. 論文，本の1章

江藤 学「コンセンサス標準とは」新宅純二郎・江藤 学（編）『コンセンサス標準戦略：事業活用のすべて』日本経済新聞出版社，2008年7月，所収，第1章，1-35頁

江藤 学「コンセンサス標準における知的財産の役割」同書所収，第6章，146-183頁

江藤 学・新宅純二郎「コンセンサス標準活用戦略のポイント」同書所収，第8章，207-234頁

江藤 学「規格に組み込まれた特許の役割」『国際ビジネス研究学会年報』14号，2008年9月，29-41頁

1.3. その他

江藤 学「コンセンサス標準 (1) コンセンサス標準戦略」『知財ぷりずむ』（経済産業調査会知的財産情報センター），71号，2008年8月，104-115頁

江藤 学「コンセンサス標準ービジネス戦略の視点から」『世界経済評論』52巻8号，2008年8月，33-42頁

江藤 学「標準化人材育成」『情報技術標準ニュースレター』80号，2008年12月，2-5頁

江藤 学「コンセンサス標準戦略」『クリーンテクノロジー』18巻12号，2008年12月，29-33頁

2. 未出版物

2.1. 研究報告書

「環境・エネルギー技術等の普及に向けた新たな知的財産制度（ソフト IP）の検討に関する調査」（財）知的財産研究所，第 IV 章2執筆，2009年

「標準化に関する教育体制整備」（財）日本規格協会，資料 B-10-1，B-10-4執筆，2009年

3. コンファレンス，学会発表

江藤 学「パテントポリシーの実態と問題」第6回日本知財学会年次学術研究会，2008年6月28日，東京

江藤 学「コンセンサス標準における特許組込手法とその役割」第6回日本知財学会年次学術研究会，2008年6月29日，東京

江藤 学「パテントポリシーの限界と効用，独禁法関連の留意事項について」SEMI プランニング会議2008，2008年8月29日

江藤 学「コンセンサス標準活用のための戦略整理」第23回研究・技術計画学会年次学術大会，2008年10月12日，東京



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ、ペンシルベニア大学ウォートンスクール、2007年12月まで）
- 2007年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 編著書

伊藤秀史・沼上 幹・田中一弘・軽部 大（編）『現代の経営理論』有斐閣，2008年11月，308頁

1.2. 論文，本の1章

武石 彰・青島矢一・軽部 大「イノベーションの理由：大河内賞受賞事例にみる革新への資源動員の正当化」『組織科学』42巻1号，2008年9月，4-14頁

軽部 大「日本企業の環境適応力とオーバー・エクステンション戦略」伊藤秀史・沼上 幹・田中一弘・軽部 大（編）『現代の経営理論』有斐閣，2008年11月，所収，第3章，105-143頁

加藤俊彦・沼上 幹・軽部 大「BU 長とミドル・ロワーとの認識ギャップ—第2回組織の<重さ>調査から」一橋大学日本企業研究センター（編）『日本企業研究のフロンティア5』有斐閣，2009年3月，所収，第4章，71-96頁

加藤俊彦・軽部 大「日本企業における事業戦略の現状と課題：質問票調査に基づくデータ分析から」『組織科学』42巻3号，2009年3月，4-15頁

2. コンファレンス，学会発表

加藤俊彦・沼上 幹・軽部 大「組織の<重さ>と日本企業の組織的問題：第2回調査から」2008年度組織学会研究発表大会，2008年6月7-8日，神戸

Karube, Masaru, Tsuyoshi Numagami and Toshihiko Kato, "Organizational Deadweight' as a Source of Organizational Dysfunction," presented at the 2008 Academy of Management Annual Meeting, 'The Questions We Ask', August 8-13, 2008, Anaheim, CA, U.S.A

軽部 大「イノベーション研究の分析視角と課題」日本経営学会第82回大会，2008年9月3-6日，東京



清水 洋

■ 履歴

- 1997年 中央大学商学部卒業
- 1999年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 2002年 ノースウェスタン大学大学院歴史学研究科修士課程修了
- 2007年 Ph.D. (経済史) ロンドン大学ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス
- 2007年 アイントホーヘン工科大学 (オランダ) ポストドクトラルフェロー
- 2008年9月～ 一橋大学イノベーション研究センター専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Shimizu, Hiroshi and Takashi Hirao, "Inter-organizational Collaborative Research Networks in Semiconductor Lasers 1975-1994," *Social Science Journal*, Vol. 46, No. 2, June 2009, pp. 233-251, forthcoming

米倉誠一郎・清水 洋「日本の業界団体:産業政策と企業有能力構築の共進化」岡崎哲二(編)『制度転換期の企業と市場』ミネルヴァ書房, 2009年, 近刊

Yonekura, Seiichiro and Hiroshi Shimizu, "Entrepreneurship in Pre-world War II Japan: The Role and Logic of the Zaibatsu," in Landes, David, Joel Mokyr and William Baumol, eds., *History of Entrepreneurship (The Invention of Enterprise: Entrepreneurship from Ancient Mesopotamia to Modern Times)*, NJ: Princeton University Press, forthcoming 2009

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Shimizu, Hiroshi and Takashi Hirao, "Collaborative Research Networks in Semiconductor Laser Technology, 1960-2000: A Comparative Perspective on Networks and Breakthroughs in the United States and Japan," *Business and Economic History On-Line*, Vol. 6, 2008

3. コンファレンス, 学会発表

Shimizu, Hiroshi, "Collaborative Research Networks in Semiconductor Laser Technology, 1960-2000: A Comparative Perspective on Networks and Breakthroughs in the United States and Japan," presented at the Business History Conference, Annual Meeting, April 10-12, 2008, Sacramento, California

清水 洋・平尾 毅「半導体レーザーにおける科学的ブレークスルー: エンジニアの流動性とネットワーク」第59回日本商品学会全国大会, 2008年6月, 長野

Shimizu, Hiroshi, "The Ingenious Crowd: Great British Inventors and their Patents" (coauthors: Christine MacLeod and Alessandro Nuvolari), presented at the 97th International Conference on Patent and Innovation, Applied Econometrics Association, December 19-20, 2008, Tokyo

Shimizu, Hiroshi, "Breakthrough Illusions in the Case of Semiconductor Laser Technology in the US and Japan," presented at the Asia-Pacific Economic and Business History Conference, Economic History Society of Australia and New Zealand, February 18-20, 2009, Tokyo



中馬 宏之

■ 履歴

- 1975年 一橋大学経済学部卒業
- 1975年 大成建設株式会社勤務（～1978年）
- 1980年 筑波大学経営・政策科学研究科修士課程修了
- 1984年 ニューヨーク州立大学バッファロー校経済学部博士課程修了
同校より Ph. D.（経済学）
- 1984年 南イリノイ大学カーボンデール校経済学部助教授
- 1985年 東京都立大学経済学部助教授（～1992年）
- 1986年 エール大学経済学部客員研究員（～1987年）
- 1992年 一橋大学経済学部助教授
- 1993年 一橋大学経済学部教授
- 1999年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2000年 エール大学経済学部客員教授（～2001年）
- 2000年～ 独立行政法人経済産業研究所 ファカルティフェロー
- 2004年 文部科学省科学技術政策研究所 客員総括主任研究官（～2007年3月）

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

中馬宏之「応用物理学会イノベーション・プロセス調査の含意」『応用物理』77巻7号, 2008年7月, 787-793頁

中馬宏之「「サイエンス型産業におけるイノベーション・プロセス調査」から見えるもの」『電子情報通信学会誌』91巻9号, 2008年9月, 798-803頁

中馬宏之「技術・市場の複雑性に挑む JSR：その変貌要因を探る」JSR 株式会社・日本経営史研究所（編）『可能にする、化学を。：JSR50年の歩み』JSR, 2008年12月, 1-31頁

2. コンファレンス, 学会発表

中馬宏之「半導体産業の構造変化要因を探る：中立性とモジュール性の視点から」SEMICON Japan 2008, International Packaging Strategy Symposium (IPSS) 2008, 2008年12月4日, 千葉（招致講演）



長岡 貞男

■ 履歴

- 1975年 東京大学工学部卒業
- 1975年 通商産業省（～1992年）
- 1980年 M.S.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1980年 工業技術院計画課、立地公害局工業配置課、通産政策局技術協力課
- 1986年 世界銀行エコノミスト
- 1990年 Ph.D.（経済学）マサチューセッツ工科大学
- 1990年 通産省通商政策局ソ連東欧室長、後ロシア東欧室長
- 1992年 成蹊大学経済学部教授
- 1996年 一橋大学商学部産業経営研究所教授
- 1997年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2004年 一橋大学イノベーション研究センター長（～2008年3月）

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 編著書

Nagaoka, Sadao, Masayuki Kondo, Kenneth Flamm, and Charles Wessner, eds., 21st Century Innovation Systems for Japan and the United States: Lessons from a Decade of Change: Report of a Symposium, Washington, D.C.: The National Academies Press, 2009, 302 pages

1.2. 論文, 本の1章

Nagaoka, Sadao, Akira Takeishi and Yoshihisa Noro, "Determinants of Firm Boundaries: Empirical Analysis of the Japanese Auto Industry from 1984 to 2002," *Journal of the Japanese and International Economies*, Vol. 22, No. 2, June 2008, pp. 87-206

長岡貞男「日本の大学研究者の発明活動の特徴と課題：日米発明者サーベイからの知見」『科学』78巻9号，2008年9月，1030-1034頁

Nagaoka, Sadao and Kenneth Flamm, "Introduction: The Chrysanthemum Meets the Eagle: The Co-evolution of Innovation Policies in Japan and the United States," in Nagaoka, Sadao et al. (eds.), 21st Century Innovation Systems for Japan and the United States: Lessons from a Decade of Change: Report of a Symposium, Washington, D.C.: The National Academies Press, 2009, pp. 3-18

Nagaoka, Sadao, Kenneth Flamm and Masayuki Kondo, "Overview," *ibid.*, pp. 21-26

Nagaoka, Sadao, "Reform of Patent System in Japan and Challenges," *ibid.*, pp. 153-168

Nagaoka, Sadao, "Does Strong Patent Protection Facilitate International Technology Transfer?: Some Evidence from Licensing Contracts of Japanese Firms," *Journal of Technology Transfer*, Vol. 34, No. 2, April 2009, pp. 128-144, forthcoming

Nagaoka, Sadao, Naotoshi Tsukada and Tomoyuki Shimbo, "The Structure and the Evolution of Essential Patents for Standards: Lessons from Three IT Standards," in Canter, Uwe, Jean-Luc Gaffard and Lionel Nesta, eds., *Schumpeterian Perspectives on Innovation, Competition and Growth*, Springer, forthcoming 2009

1.3. その他

Nagaoka, Sadao, "Inventors & Invention Process in Japan: Some Implications on R&D Governance," *Spotlight*, Vol. 27, No. 3, May/June 2008, pp. 14-16

長岡貞男「フロンティア型の研究開発を目指して」『企業会計』60巻7号, 2008年7月, 2-3頁

長岡貞男「不況下の研究開発と政府の役割—投資喚起へ誘因創出を」『日本経済新聞』経済教室欄, 2009年3月10日, 25面

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Yamauchi, Isamu and Sadao Nagaoka, "Complementary Reforms of Patent Examination Request System in Japan," IIR Working Paper WP#08-07, December 2008

Nagaoka, Sadao and John Walsh, "The R&D Process in the U.S. and Japan: Major Findings from the RIETI-Georgia Tech Inventor Survey," RIETI Discussion Paper 09-E-010, Research Institute of Economy, Trade and Industry, March 2009

Nagaoka, Sadao and John Walsh, "Commercialization and Other Uses of Patents in Japan and the U.S.: Major Findings from the RIETI-Georgia Tech Inventor Survey," RIETI Discussion Paper 09-E-011, Research Institute of Economy, Trade and Industry, March 2009

2.2. 研究報告書

「イノベーション促進に向けた新知財政策—グローバル・インフラストラクチャーとしての知財システムの構築に向けて」特許庁, イノベーションと知財政策に関する研究会報告書 (座長 長岡貞男), 2008年8月

「イノベーション競争と独禁政策: 合併規制に焦点を合わせて」公正取引委員会競争政策研究センター (研究代表 長岡貞男), 2009年3月

3. コンファレンス, 学会発表

Nagaoka, Sadao, "An Analysis of Unilateral and Cross-licensing: New Evidence from the Inventor Survey in Japan" (Keynote Speech), The 25th DRUID Celebration Conference 2008 on Entrepreneurship and Innovation, June 16, 2008, Copenhagen

Nagaoka, Sadao and John Walsh, "Invention, Commercialization and the Uses of Patents in Japan and the US: Results from the RIETI-Georgia Tech Inventor Survey," presented at the 13th International Conference on Technological Innovation and Development, International Joseph A. Schumpeter Society (ISS), July 2-5, 2008, Rio de Janeiro, Brazil

Owan, Hideo and Sadao Nagaoka, "Intrinsic and Extrinsic Motivation for Inventors," presented at the 13th ISS Conference, July 2-5, 2008, Rio de Janeiro

- Nagaoka, Sadao, "Invention and Innovation Process of Small Firms in Japan and the US: A Comparative Analysis," presented at the 2008 TIER-RIETI International Workshop on Promoting Innovation and Strengthening International Competitiveness of SMEs, Taiwan Institute of Economic Research (TIER) and Research Institute of Economy, Trade and Industry (RIETI), December 2, 2008, Taipei
- Nagaoka, Sadao, "An Analysis of Unilateral and Cross-licensing: New Evidence from the Inventor Survey in Japan" (Keynote Speech), The 97th International Conference on Patent and Innovation, Applied Econometrics Association (AEA), December 19-20, 2008, Tokyo
- Yamauchi, Isamu and Sadao Nagaoka, "Complementary Reforms of Japanese Patent Examination System," presented at the 97th International AEA Conference, December 19-20, 2008, Tokyo
- Nishimura, Yoichiro and Sadao Nagaoka, "An Econometric Assessment of the Effects of Patent Thickets," presented at the 97th International AEA Conference, December 19-20, 2008, Tokyo
- Aoki, Reiko and Sadao Nagaoka, "An Economic Analysis of Patent Law Exemption for Research on a Patented Invention," presented at the 97th International AEA Conference, December 19-20, 2008, Tokyo
- 長岡貞男・本庄裕司・中村健太・森下節夫・清水由美「日本のバイオ企業の参入と成長のメカニズム：コア技術の獲得と成長」IIR 主催産学官連携ワークショップ「バイオ・イノベーションの過程と今後の戦略」, 2009年3月10日, 東京
- 長岡貞男・中村健太・本庄裕司・高鳥登志郎「アライアンスと製薬企業のパフォーマンス：日米欧主要製薬企業の比較分析」IIR 主催産学官連携ワークショップ, 2009年3月10日, 東京



西口 敏宏

■ 履歴

- 1977年 早稲田大学政治経済学部卒業
- 1981年 M.Sc. (産業社会学) ロンドン大学インペリアル・カレッジ
- 1986年 MIT 国際自動車プログラム常勤研究員
- 1990年 D.Phil. (社会学) オックスフォード大学
- 1990年 インシールド, 常勤ポストドクトラルフェロー
- 1991年～ インシールド, ユーロ・アジアセンター, リサーチフェロー
- 1991年 ペンシルベニア大学ウォートン・スクール経営学部助教授
- 1994年 一橋大学産業経営研究所助教授
- 1997年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2001年夏 ケンブリッジ大学ジャッジ経営大学院客員研究員
- 2002年夏 メリーランド大学公共政策大学院客員上級研究員
- 2003年夏 同 上
- 2004年秋 マサチューセッツ工科大学国際研究センター客員研究員
- 2005年夏 同 上
- 2007年～ 財団法人防衛調達基盤整備協会 非常勤理事
- 2008年～ 財務省財務総合政策研究所 特別研究官

■ 研究業績

1. 出版

1.1. 論文

辻田素子・西口敏宏「中国・温州の中小企業ネットワーク—現地服装産業の独自調査から」『商工金融』58巻4号, 2008年4月, 25-44頁

1.2. その他

西口敏宏「人生成功の秘訣—運の構造化」『組織科学』視点欄, 41巻4号, 2008年6月20日, 83頁

西口敏宏「社会システム論」『クォーターリー生活福祉研究』（明治安田生活福祉研究所）, 17巻2号, 2008年, 4-23頁

2. 未出版物

2.1. 研究報告書

「中央政府における究極の省庁別財務責任者である会計官（Accounting Officer）, 首席財務官（CFO）等の役割に関する国際比較研究—防衛調達改革の制度的環境整備へ向けて」（財）防衛調達基盤整備協会（研究代表 西口敏宏）, 2009年3月

「新しい防衛調達モデルの探索的研究（その2）」（財）防衛調達基盤整備協会（研究代表 西口敏宏）, 2009年3月



楡井 誠

■ 履歴

- 1994年 東京大学経済学部卒業
- 1996年 東京大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
- 2001年 サンタフェ研究所 ポストドクトラルフェロー（～2004年）
- 2002年 Ph.D.（経済学）シカゴ大学
- 2004年 ユタ州立大学経済学部助教授
- 2006年 カールトン大学経済学部助教授
- 2008年9月～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文

Nirei, Makoto, "Self-Organized Criticality in a Herd Behavior Model of Financial Markets," *Journal of Economic Interaction and Coordination*, Vol. 3, No. 1, June 2008, pp. 89-97

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Nirei, Makoto and Sanjib Sarker, "Time-varying Employment Risks and Consumption: A Quantitative General Equilibrium Study," IIR Working Paper WP#08-04, September 2008

Nirei, Makoto, "Aggregate Fluctuations of Discrete Investments," IIR Working Paper WP#08-08, December 2008

3. コンファレンス, 学会発表

Nirei, Makoto, "Endogenous Fluctuations of Investment and Output," 京都大学経済研究所マクロ経済学・経済システム研究会, 2008年11月25日

Nirei, Makoto, "Aggregate Fluctuation of Discrete Investments," 東北大学現代経済学研究会, 2009年2月21日

Nirei, Makoto, "Distributional Test for Endogenous Effects: A Case of Lumpy Investments," presented at the Applications of Physics in Financial Analysis 7th International Conference, March 1-5, 2009, Tokyo



延岡 健太郎

■ 履歴

- 1981年 大阪大学工学部卒業
- 1981年 マツダ株式会社（～1989年）
- 1988年 M.S.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1993年 Ph.D.（経営学）マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1994年 神戸大学経済経営研究所助教授
- 1999年 神戸大学経済経営研究所教授
- 2001年 博士（経営学）神戸大学
- 2008年5月～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

延岡健太郎「日本企業のものづくりにおける価値創造の課題」シャム・サンダー・山地秀俊（編）『日本のもの造り—組織指向の会計と国際会計』神戸大学研究叢書, 2009年3月, 所収, 第3章, 57-76頁

竹田陽子・青島矢一・延岡健太郎・林 采成・元 時太「設計3次元化が製品開発プロセスと成果に及ぼす影響に関する日本・中国・韓国の比較調査」『技術マネジメント研究』8号, 2009年3月, 53-61頁

延岡健太郎・岩崎孝明「キーエンス：価値創造による社会貢献をめざした経営哲学」『一橋ビジネスレビュー』56巻4号, 2009年3月, 112-128頁

1.2. その他

延岡健太郎「日本のものづくりを強化する戦略&マネジメント」『マネジメントトレンド』12巻4号, 2008年, 2-10頁

延岡健太郎「経営学のフロンティア：技術経営の神髄と価値創造 (1)-(8)」『日本経済新聞』やさしい経済学欄, 2009年1月15-26日

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

延岡健太郎「価値づくりの技術経営：意味的価値の創造とマネジメント」IIR ワーキングペーパー WP#08-05, 2008年10月



米倉 誠一郎

■ 履歴

- 1977年 一橋大学社会学部卒業
- 1979年 一橋大学経済学部卒業
- 1981年 一橋大学大学院社会学研究課修士課程修了
- 1982年 一橋大学大学院社会学研究課博士課程から一橋大学商学部産業経営研究所助手
- 1984年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1988年 一橋大学産業経営研究所助教授
- 1990年 Ph.D. (歴史学) ハーバード大学
- 1995年 一橋大学産業経営研究所教授
- 1997年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2001年3月)
- 2003年 ソニー株式会社グローバル・ハブ・インスティテュート・オブ・ストラテジー,
コ・プレジデント (～2004年3月)
- 2008年～ 一橋大学イノベーション研究センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 本の1章

米倉誠一郎・原 泰史 「「見える手」から「消えゆく手」へ」塩見治人・橋川武郎 (編) 『日米企業のグローバル競争戦略—ニューエコノミーと「失われた十年」の再検証』名古屋大学出版会, 2008年10月, 所収, 12-43頁

米倉誠一郎・清水 洋「日本の業界団体: 産業政策と企業能力構築の共進化」岡崎哲二 (編) 『制度転換期の企業と市場』ミネルヴァ書房, 2009年近刊

Yonekura, Seiichiro and Hiroshi Shimizu, "Entrepreneurship in Pre-world War II Japan: The Role and Logic of the Zaibatsu," in Landes, David, Joel Mokyr and William Baumol, eds., *History of Entrepreneurship (The Invention of Enterprise: Entrepreneurship from Ancient Mesopotamia to Modern Times)*, NJ: Princeton University Press, forthcoming 2009

1.2. その他

米倉誠一郎「日本の有人宇宙活動の是非を問う」『毎日新聞』朝刊, 論点欄, 2008年6月27日, 7面

米倉誠一郎「情報の非対称性・偏在が解消され、トップとミドルの役割に質的な大変化」『オムニマネジメント』(日本経営協会), 17巻11号, 2008年11月, 2-7頁

アルフレッド・D・チャンドラー, Jr. 著, 米倉誠一郎・太田理恵子訳「チャンドラー博士遺稿: 21世紀への歴史的教訓 (5)-(8)」『一橋ビジネスレビュー』56巻1-4号, 2008年6, 9, 12月, 2009年3月

Yonekura, Seiichiro, "Steel," *Oxford Encyclopedia of the Modern World* (Peter N. Stearns of George Mason University, the editor in chief), Oxford University Press, forthcoming 2009

(書評)

大東英祐・武田晴人・和田一夫・粕谷誠著『ビジネス・システムの進化—創造・発展・企業者活動』／『書斎の窓』574号，2008年5月，46-49頁

石川健次郎編『ランドマーク商品の研究—商品史からのメッセージ』／『経営史学』（経営史学会），43巻1号，2008年6月，94-96頁

安藤忠雄著『建築家安藤忠雄』／『日経ビジネス』2009年1月19日，64頁

重松清著『きみの友達』／『日経ビジネス』2009年3月16日，77頁

2. 兼任研究員——2008年度

■ 林 大樹

一橋大学大学院社会学研究科教授

3. 外国人研究員（客員）——2008年度

■ キランクマール・モマヤ Kirankumar MOMAYA

インド工科大学デリー校准教授

研究テーマ「日本とインドの IT 産業の比較」

2008年7月1日～12月26日

■ 徐 麟徳（ソ インドク） Induk SUH

嶺南大学（韓国）教授

研究テーマ「日韓企業の競争力比較」

2008年9月1日～11月28日

III. 教育活動

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 講義——2008年度

IIR 教員による講義の概要（2008年度講義要綱より）は以下の通りである。

■ 大学院商学研究科の講義

1. 研究者養成コース

[イノベーション講座]

「イノベーションの経済分析」夏学期 2 単位 長岡貞男

この講義では企業、産業そして経済の成長に重要な役割を果たすイノベーションについて、基礎的な理論を理解するとともに、実証的な分析方法を学ぶことを目的とする。発明と特許レース、イノベーションにおける不確実性・リスク、知識の特徴、専有可能性、イノベーションによる競争、技術機会、スピルオーバー、汎用基盤技術、R&D 生産性の決定要因、不完備契約と研究開発のマネジメント、技術普及とライセンス、産業のライフサイクルとイノベーションのタイプ、生産性と産業構造変化、内生的な成長理論などをカバーする。また、特許データ等を利用した実証分析の方法も学ぶ。

「イノベーション・マネジメント特論」夏学期 2 単位 軽部 大

本講義では、イノベーションに関わる経営現象を自ら研究するために必要となる基礎的な知識を学ぶ。特に、イノベーションの特質、イノベーションの発生・変化パターン、外部環境の変化に対する戦略・組織的適応に関わる諸問題を検討する。具体的には、これらの問題を扱う基本的な海外文献を読み、イノベーション研究に必要な主要概念、フレームワーク、方法論、データ収集技法を理解することを目標とする。経営学の基礎的訓練を事前に受けていることが望ましい。

「イノベーションと人材形成」冬学期 2 単位 中馬宏之

イノベーション・プロセス（＝創造的な発見・発明が市場を通じて社会に変革をもたらすプロセス）の産業特性や企業特性を、知識・ノウハウが累積的に蓄積されていく仕組みに着目しながら検討する。その際に、臨場感を大切にするために、色々な産業に属している個別企業の研究・開発・設計・量産・マーケティング活動に関する事例を取り上げる。事例としては、半導体（デバイス・材料・装置）、自動車・自動車部品、工作・産業機械、電気機械等の製造業が中心になる。ただし、事例の中から帰納的に見いだされる色々な仮説の妥当性を確認するためにも、鉄道・旅行・レストラン・人材請負といったサービス業の事例も取り上げたい。なお、事例自体は、担当教官が研究対象としてきたものが主体である。

「技術史・企業者史」冬学期 2 単位 米倉誠一郎

経営史研究と経済史研究のもっとも大きな違いは、マクロ経済環境の変化さえ企業の経営環境のひとつの与件にしか過ぎないと考えることである。振り返れば、1929年の大恐慌期でさえ業績を続伸させた企業は存在した。それは、この現代においても同じである。すなわち、マクロ経済はすべての企業にほぼ等しい条件で存在する。それを主体的、自律的に変革するのは企業であり、その経営者であり企業者なのである。経営史研究とはまさにその主体的なプロセスを研究する学問である。本コースでは、こうした企業の主体的行動においてもっとも重要な位置を占めるイノベーションのうち、とくに技術に焦点を絞っていくつかの論点を考えてみたい。経営史の流れを企業の技術の観点から整理し、その歴史的視点から企業者を研究しようという試みである。

「組織間関係論」夏学期 2 単位 西口敏宏

組織の存続と繁栄にとって、組織間関係はどのような役割を演じるのか。組織間の相互作用からいかなる秩序が生まれ、共進化し、新しい体系を生み出すのか。組織間関係の成否を分ける要素とは何か。この授業では、国際比較を考慮に入れながら、組織間関係の理論的・実証的分析を行う。通説にとらわれず、自分の頭で考え抜く思考力の涵養と、実践に役立つ含意の導出を狙う。今年度は、社会学系の古典（Granovetter, Burt）から最新のスモールワールド・ネットワーク理論（Barabasi, Watts）までを含むネットワーク理論（英文）を重点的に学び、コースの後半では、各自が企画し実践する独自のフィールド調査に基づいて、ターム・ペーパーをまとめ上げ、発表してもらう。

「イノベーションと戦略・組織」冬学期 2 単位 延岡健太郎

イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、イノベーションをめぐる企業の戦略と組織を主たるテーマとする。イノベーションで成功し、その成果を享受するために企業は戦略、組織に関してどのように取り組んでいけばよいのか。これらの問題を扱っている内外の学術文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。経営学の基礎的訓練を事前に受けていることが望ましい。

「特別講義：イノベーションの国際比較Ⅱ」夏学期 2 単位 米倉誠一郎／キラंकマール・モマヤ

This course is designed to introduce concepts of international competitiveness with a focus on Asian Countries. Popular and emerging competitiveness paradigms as well as concepts of innovation and business models for competitiveness will be introduced and their applications to formulate strategy will be discussed. Key objective of the course is to give basics and new perspectives and skills on competitiveness to learners. Practical dimensions will be introduced with real-world cases, caselets and examples as well as conceptual models.

2. MBA コース

「ビジネス・エコノミクス（競争と戦略）」冬学期 2 単位 長岡貞男

本コースでは、企業行動における合理的な選択や市場競争の機能を理解するために必要な基礎的な経済分析の概念・道具を学ぶ。機会費用、サンクコスト、価格差別、先行優位の源泉、情報カスケード、クレダブル・コミットメント、合併、カルテルと業務提携の差、水平的競争対垂直的な競争、技術の専有可能性、ネットワーク外部性、比較優位対絶対優位などの概念を理解し、現実の経営問題に応用できるようになることを目標とする。

「経営組織」冬学期 2 単位 青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことであり、そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「企業家精神」夏学期 2 単位 米倉誠一郎

本講義では、新産業・新規事業を自ら創出し経営に当たってきた企業家的経営者（Entrepreneurial Managers）を招いて、直接ディスカッションすることを目的としている。受講者はそのディスカッションに備えて、当事者の事業創造における意思決定・経営資源・経営戦略・組織革新等について事前分析し、対話を通じて「経営実行力」を学習することが望まれている。したがって、受講者には事前学習として対象企業のケース分析が課せられる。その分析をもとに、経営者とのディスカッションを行うため、受講者には質の高いリサーチ能力と執筆技能およびディスカッション能力が求められる。

「戦略分析」冬学期 2 単位 軽部 大

企業戦略にまつわる本は巷にあふれているが、その多くは成功事例に基づく「後付け的な解釈」である場合が多い。その背後に存在する「共通の論理」を分析・評価する議論は圧倒的に少ない。本講義は、企業の戦略行動の分析・評価に必要なとなる基本的な分析フレームワークと分析技法に焦点を当てる。

「ワークショップ：産業」通年 6 単位 長岡貞男

「ワークショップ：イノベーション」通年 6 単位 中馬宏之

「ワークショップ：技術と組織」通年 6 単位 青島矢一

3. シニアエグゼクティブプログラム

「ケーススタディ」第8クール（2008年10月25日） 延岡健太郎

「ケーススタディ」第8クール（2008年10月25日） 青島矢一

「経営者研究」第8クール（2009年3月6日） 軽部 大

■ 商学部の講義

「特別講義：イノベーション・マネジメント」夏学期2単位 中馬宏之／西口敏宏

イノベーション（経済価値をもたらす革新）はどのように生み出されるのか。イノベーションを引き起こすためのマネジメントとはいかなるものか。イノベーションからいかに収益を確保するのか。イノベーションを通じて産業構造はどのように変化するのか。経済制度や法制度は産業におけるイノベーションにいかなる影響を与えるのか。イノベーションを生み出す仕組みが国の競争力にどのように関係してくるのか。これらの問いに答えようとする学問領域が「イノベーション研究」である。本講義では、イノベーション研究の全体を網羅するのではなく、ネットワーク理論から半導体産業まで最先端の研究成果を扱うことによって、イノベーションという社会現象を理解する能力を養うことを目的とする。講義形式で基本的な概念や理論を紹介すると同時に、実際の事例を用いて、概念や理論を現実の問題へ応用する機会を提供する。

「経営史」冬学期4単位 米倉誠一郎

産業革命以降のビジネスの発展について、英米日企業の国際比較から多面的に考察する。本講義でとくに力説したいのは、経済の発展をもたらすイノベーションは、有名無名にかかわらず一人ひとりの個人の悪戦苦闘から生まれるものであって、冷たい構造的な物語りではないということである。教室における講義の他に、ビデオやゲスト講師を迎えることによって、18世紀から21世紀に至る生き生きとしたビジネスの歴史に迫る。

「導入ゼミナールⅠ」夏学期2単位 軽部 大

■ 大学院経済学研究科の講義

「ワークショップ：産業・労働」夏学期2単位 中馬宏之／長岡貞男 (他学部教員と共同講義)

2. 資料室

資料室は、イノベーション研究センターの前身である産業経営研究所設立以来、一貫して企業研究の基礎資料の収集・整理に努めてきた。主な資料としては、内外の会社史・経営者史・有価証券報告書等がある。これらの資料は、現在、学内外の教職員・学生に広く利用されており、今後とも一層の充実が期待されている。

■ 資料（2009年4月1日現在）

① 図書

所蔵図書冊数	
和書	74,942冊
洋書	19,408冊
計	94,350冊

2008年度受入図書冊数	
購入和書	269冊
購入洋書	38冊
寄贈その他和書	432冊
寄贈その他洋書	130冊
計	869冊

② 雑誌

所蔵雑誌種類数	
和雑誌	618種
洋雑誌	250種
計	868種

2008年度受入雑誌種類数	
購入和雑誌	42種
購入洋雑誌	74種
寄贈その他の和雑誌	111種
寄贈その他の洋雑誌	9種
計	236種

③ 特殊文献

会社史	8,746冊（和書7,240冊・洋書1,506冊）
経営者史	6,872冊（和書6,220冊・洋書652冊）
有価証券報告書	冊子体（～1997年） CD-ROM版（1996年～2002年） インターネット版（eol）（1984年～最新版）
米国大企業年次報告書	641社
大友文庫	996冊（和書44冊・洋書952冊）

■ 利用（2008年度）

①利用者数および貸出冊数

利用者数

教職員	326人
学生	1,793人
学外	64人

貸出冊数

教職員	438冊
学生	3,444冊

②閲覧室

開室	月曜日～金曜日 9～17時
閉室	土曜日、日曜日、祭日、休日

IV. 研究成果および刊行物

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1. 一橋ビジネスレビュー——2008年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供するほか、掲載されたケースをもとに、読者を対象とした公開ディスカッションの場を定期的に設ける、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する、(5) 読者葉書、ホームページ等、読者と場を共有しながらオープンでインタラクティブな関係を目指す。また、2006年度よりフロア参加者を募り、年1~2回程度、特集をテーマに「一橋ビジネスフォーラム」を開催、第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。今年度は、「経営戦略としてのM&A：マネーゲームから国際競争力へ」と題して開催された。

■ 編集顧問

生駒俊明（日立金属（株）取締役／科学技術振興機構上席フェロー）

御手洗富士夫（日本経済団体連合会会長／キヤノン（株）代表取締役会長）

野中郁次郎（一橋大学名誉教授）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長）

青島矢一 石倉洋子 伊藤秀史 江藤 学 加賀谷哲之 加藤俊彦 軽部 大

橘川武郎 楠木 建 清水 洋 竹内弘高 中馬宏之 長岡貞男 中野 誠 西口敏宏

楡井 誠 沼上 幹 延岡健太郎 林 大樹 藤川佳則 松井 剛 守島基博

学外

伊丹敬之（東京理科大学） 藤本隆宏（東京大学） 金井壽宏（神戸大学） 國領二郎（慶應義塾大学） 榊原清則（慶應義塾大学） 武石 彰（京都大学） 藤村修三（東京工業大学） M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国） M. Kenney（カリフォルニア大学デービス校 米国） 李 亨五（淑明女子大学校 韓国） J. Lin（北京大学 中国）

徐 正解（慶北大学校 韓国）



■『一橋ビジネスレビュー』 第56巻1号 2008年6月

○特集 「日本経営学の最前線Ⅱ—日本のビジネスシステム」
2003年度から文部科学省21世紀 COE (Center of Excellence) プログラムとして、一橋大学、神戸大学、東京大学が経営学分野における研究重要拠点として選ばれ、5年間の研究プログラムがスタートした。本誌では、この研究成果を「日本経営学の最前線」シリーズとして、全3回にわたって取り上げる。今号は、シリーズ第2弾として、神戸大学を特集する。日本の多様なビジネスに隠された設計思想を解きほぐし、その制度的叡智を探る。

三品和広 「見えざる利益—ビジネスシステム論の新たな視角」

西尾久美子 「伝統産業のビジネスシステム—350年間続くサービス産業「京都花街」のダイナミズム」

水谷文俊 「私鉄経営とビジネスシステム」

栗木 契 「家庭用テレビゲーム産業におけるビジネスシステムの複合競争」

黄 磷・李 東浩 「日本の小売企業の競争力—イトーヨーカ堂の中国での事業展開」

平野光俊・内田恭彦・鈴木竜太 「日本的キャリアシステムの価値創造のメカニズム」

○連載 「経営学のイノベーション」

楠木 建 「ストーリーとしての競争戦略 (1)：戦略は「ストーリー」

○コラム連載

アルフレッド・D・チャンドラー Jr. 「遺稿 21世紀への歴史的教訓 (5)：情報革命の進化と企業」

○ビジネス・ケース

安田隆二・川田英樹 「りそなホールディングス (1)：準国有化されたりそな銀行のV字再生」

青島矢一・朱 普偉・呉 淑儀 「無錫小天鵝：中国家電企業の成長と落とし穴」

○経営を読み解くキーワード

西村陽一郎 「特許制度のハーモナイゼーション」

○マネジメント・フォーラム

寺井秀藏 (株式会社ワールド代表取締役社長 CEO 兼 COO)

「MBOのメリットを生かして「勝ち続ける組織」を作ります」

／インタビューア 米倉誠一郎

○投稿論文

平澤 哲 「マネジメントにおける科学的知識の応用と日常実践のギャップの探求—科学の厳密性か、実践上の適切性かというジレンマに着目して」



■『一橋ビジネスレビュー』 第56巻2号 2008年9月

○特集 「日本経営学の最前線Ⅲ—日本発ものづくり経営学」
2003年度から文部科学省21世紀 COE (Center of Excellence) プログラムとして、一橋大学、神戸大学、東京大学が経営学分野における研究重要拠点として選ばれ、5年間の研究プログラムがスタートした。今号は、シリーズ第3弾(最終回)として、東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センターを取り上げる。設計論や組織能力論に立脚した広義の「ものづくり」概念による、製造業や生産現場の境界を超えた日本発・現場発の経営学を紹介する。

呉 在恒・橋本規之・和田剛明 「統合型ものづくりシステム的一般体系化」

具 承桓・小菅竜介・佐藤秀典・松尾 隆 「ものづくり概念のサービス業への適用」

新宅純二郎・立本博文・善本哲夫・富田純一・朴 英元 「製品アーキテクチャから見る
技術伝播と国際分業」

天野倫文・中川功一・大木清弘 「グローバル戦略の組織統合と経営革新— HDD 産業に
見る経営改革の比較」

貴志奈央子・高橋伸夫 「ライセンス戦略と非内発型発明」

藤本隆宏・大隈慎吾・渡邊泰典 「人工物の複雑化と産業競争力」

○特別寄稿

野中郁次郎・紺野 登 「戦略への物語アプローチ」

○ビジネス・ケース

武石 彰・宮原諄二・三木朋乃 「富士フイルム：デジタルX線画像診断システムの開発」

安田隆二・川田英樹 「りそなホールディングス (2)：リストラから持続的成長への転換
の模索」

○連載 「経営学のイノベーション」

楠木 建 「ストーリーとしての競争戦略 (2)：競争戦略の基本論理」

○マネジメント・フォーラム

中鉢良治 (ソニー株式会社代表執行役社長)

「「ソニーらしい」ものづくりを追求します」

／インタビュアー 米倉誠一郎

○コラム連載

アルフレッド・D・チャンドラー Jr. 「遺稿 21世紀への歴史的教訓 (6)：家庭用エレクトロニクス産業の覇者—松下とソニー (1)」

○経営を読み解くキーワード

鈴木竜太 「メンタリング」

○投稿論文

中川功一 「システミック・イノベーションに対するコンポーネントメーカーの事業戦略— TDK の HDD 用磁気ヘッド事業の事例分析より」



■『一橋ビジネスレビュー』 第56巻3号 2008年12月

○特集「M&Aと企業価値」

産業構造が大きな転換点を迎えるなかで、世界規模での企業再編の流れが加速している。日本企業も例外ではなく、さらなる競争力向上の手段として、あるいはグローバル展開を戦略的に実践していくための手段として、M&Aを活用するケースが増えている。しかしながら、実際にM&Aを企業価値創造や持続的な競争力の向上に結びつけることができているケースはそれほど多くはない。本特集では、日本企業がM&Aを活用し、成長機会を柔軟に捉えるため、あるいは持続的に企業価値創造を実現していくために何が必要となるかについて多面的に検討していく。

伊藤邦雄・加賀谷哲之「企業価値を創造するインタンジブル統合」

服部暢達「M&A成功の条件：日本企業によるアウトバウンド案件を中心に」

矢部謙介「グループ企業再編の役割と財務業績への影響」

岩倉正和「M&Aにおいて企業価値を高めるための取締役の法的責任・行動準則」

蟻川靖浩・宮島英昭「どのような企業がM&Aを選択するのか：企業統治と組織構造」

○連載「技術経営のリーダーたち」(1)

吉田 守 (パナソニック株式会社 AVC ネットワークス社副社長)

「写真文化に真正面から取り組み、LUMIX を大成功に導いたリーダー」

／インタビュアー 延岡健太郎・青島矢一

○ビジネス・ケース

藤川佳則・鈴木謙一・フレデリック・ディトレス・オッテ・トロエル「公文教育研究会：インドにおける理念主導型サービス・グローバル戦略の展開」

鈴木 修「シチズン時計：電波腕時計の開発・事業化過程」

○連載「経営学のイノベーション」

楠木 建「ストーリーとしての競争戦略 (3)：静止画から動画へ」

○コラム連載

アルフレッド・D・チャンドラー Jr.「遺稿 21世紀への歴史的教訓 (7)：家庭用エレクトロニクス産業の覇者—松下とソニー (2)」

○経営を読み解くキーワード

菅野 寛「オペレーション・マネジメント」

○マネジメント・フォーラム

佐山展生 (GCA サヴィアングループ株式会社取締役)

「顧客本位を徹底した M&A アドバイザーとして、日本企業に活力をもたらします」

／インタビュアー 米倉誠一郎

○投稿論文

柴田友厚「技術選択のジレンマのマネジメント：並行開発体制の構築」



■『一橋ビジネスレビュー』 第56巻4号 2009年3月

○特集 「ビジネスとしてのスポーツ」

スポーツは、もはや世界的規模で一大産業となっている。国や地域を問わず、地球上の何億、何十億もの人々がスポーツの試合の結果に、日々一喜一憂している。一方で、ビジネスとしてのスポーツの未来は、必ずしも明るいとはいえない。日本では、地上波でのプロ野球のテレビ中継がめっきり減少した。また、大相撲のあり方にも批判が高まっている。本特集では、スポーツビジネスの特徴を踏まえたうえで、サッカー、大相撲、プロ野球、高校野球を取り上げ、ビジネスとしてのスポーツのあり方を探っていく。

広瀬一郎 「スポーツリーグ産業の構造・特質・リスク」

武藤泰明 「経営論から見た日本のプロサッカー」

中島隆信 「大相撲の経済・経営学」

小林 至 「産業としての日本のプロ野球とマネジメント」

橘川武郎 「プロ野球の危機と阪神タイガース：一ファンの懸念」

脇村春夫 「高校野球と教育：過去・現在・未来」

○特別寄稿

野中郁次郎・徳岡晃一郎 「戦略は人事に従う：知創人事論」

○連載 「技術経営のリーダーたち」(2)

山田敬嗣 (NEC C&C イノベーション研究所長)

「社会変革を誘導するオープンイノベーションの仕掛け人」

／インタビューア 延岡健太郎・青島矢一

○ビジネス・ケース

延岡健太郎・岩崎孝明 「キーエンス：価値創造による社会貢献をめざした経営哲学」

田路則子・五十嵐伸吾 「レイテックス：ハイテク・スタートアップの成長プロセス」

○連載 「経営学のイノベーション」

楠木 建 「ストーリーとしての競争戦略 (4)：始まりはコンセプト」

○コラム連載

アルフレッド・D・チャンドラー Jr. 「遺稿 21世紀への歴史的教訓 (8)：「ビデオカセットレコーダーの標準をめぐる競争」

○第8回ポーター賞

大藺恵美 「ポーター賞受賞企業に学ぶ」

○マネジメント・フォーラム

犬飼基昭 (財団法人日本サッカー協会会長)

「サッカーを通じた地域一体型のビジネスと子どもたちへの教育を通じて日本のスポーツの地位向上に努めます」

／インタビューア 米倉誠一郎・橘川武郎

○経営を読み解くキーワード

治部れんげ 「ワーク・ライフ・バランス」

○投稿論文

橋本正洋・坂田一郎・梶川裕矢・武田善行・松島克守 「ネットワーク分析によるイノベーションの学術俯瞰とイノベーション政策」

2. ワーキングペーパー——2008年度

イノベーション研究センターでは、個人または共同研究の過程で明らかになった最新の成果をワーキングペーパーとしてタイムリーに発表している (<http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/cgi-bin/search.cgi?mode=wp>)。

WP#08-04	Nirei, Makoto and Sanjib Sarker, "Time-varying Employment Risks and Consumption: A Quantitative General Equilibrium Study" September 2008
WP#08-05	延岡健太郎「価値づくりの技術経営：意味的価値の創造とマネジメント」2008年10月
WP#08-06	Suh, Induk, "Factors Influencing Business Succession" November 2008
WP#08-07	Yamauchi, Isamu and Sadao Nagaoka, "Complementary Reforms of Patent Examination Request System in Japan" December 2008
WP#08-08	Nirei, Makoto, "Aggregate Fluctuations of Discrete Investments" December 2008

3. ケーススタディ——2008年度

諸企業に関する最新の調査成果の外部報告を、ケーススタディとして適宜発行している (<http://www.iir.hit-u.ac.jp/iir-w3/cgi-bin/search.cgi?mode=cs&lpage=20>)。

- | | |
|------------|---|
| CASE#08-03 | 青島矢一・北村真琴「セイコーエプソン株式会社:高精細インクジェット・プリンタの開発」2008年5月 |
| CASE#08-04 | 高梨千賀子・武石 彰・神津英明「NEC:砒化ガリウム電界効果トランジスタの開発」2008年9月 |
| CASE#08-05 | 小阪玄次郎・武石 彰「伊勢電子工業:蛍光表示管の開発・事業化」2008年9月 |
| CASE#08-06 | 伊藤剛史・小川 毅・ゲレルサイハン アリュナー・兒玉大輔・申英吉「医療法人秀公会 あづま脳神経外科病院の組織風土改革」2008年10月 |
| CASE#09-01 | 池内 誠・狩野英樹・清水 慎・武田信介・劉 昱「京都市立堀川高等学校—学校改革の軌跡—」2009年1月 |

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒186-8603
東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411(代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research